

「SDGs 人間としての『あたりまえ』を伝える。未来を今に引き寄せるツール」

を聴いて

工学部 自然環境工学科 満田 亮

8月19日に、国連アジア太平洋経済社会委員会社会問題担当官の秋山愛子さんから、SDGsについて詳しくお話を伺いました。

個人の課題は社会の課題というポイントを「氷山の理論」のたとえでお話いただきました。氷山の理論とは「氷山の8割は沈んで隠れており、海面に現れているのは2割にすぎない」という考えです。

国連は2030年までに持続可能でより良い世界を目指すために17の目標項目を2016年に定め、SDGsと略称していますが、その達成ランキングでは、日本は156か国中15位です。達成されていると評価されているのは、17項目の1つである「質の高い教育をみんなに」だけで、他は、達成できていません。残り10年を切っている中で掲げた目標をすべて達成するのは正直厳しいと感じます。

SDGsは、日本だけが17項目全てを達成できればいいという問題なのではなく、世界各国が協力しあっていくことが大切です。しかし、秋山さんは、SDGsを国や政府、企業に押し付ける「他人ごと」にするのではなく、一人ひとりが意識する「自分ごと」にしていくことが大事だとおっしゃっていました。

今回の講演会を通して、私は、これから、SDGsを自分自身の問題として向き合っていくと、心に決めました。